

育苗期から移植期にかけての注意事項

- 育苗期間はハウス開閉による温度管理を徹底しましょう。
- 田植え適期の目安は5月15日から25日です。できるだけ風の無い暖かい日に行い、苗の活着と初期生育を促しましょう。
- 罹病した苗は移植せず、取置苗は補植後速やかに処分しましょう。

1 気象経過予測と健苗育成

- ・ 気象庁によると、向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込みです。特に、5月14日から20日にかけては日最高気温が25℃を超える場合も想定されます。
- ・ 硬化期（中苗：緑化後から3.5葉）におけるハウス内の気温の目安は日中が20～25℃、夜間が5～10℃です。ハウス内の温度が高くと苗が徒長しやすくなることに加え、30℃を超えると細菌病（もみ枯細菌病（写真1）、苗立枯細菌病、褐条病）の発生リスクも高まるので、ハウス開閉による温度管理を徹底してください。
- ・ 育苗中にばか苗病（写真2）が発生した場合は、直ちに抜き取り、その場に放置せずに離れた場所で埋設するなど適切に処分してください。



写真1 もみ枯細菌病による苗腐敗



写真2 ばか苗病の発生（→箇所）



健苗 ばか苗

健苗よりも苗が明らかに長く、色が淡い

2 適期移植

- ・ 苗の活着は水温が高いほど促進されるので、田植えはできるだけ風の無い暖かい日に実施してください。

3 本田での病害発生防止対策

- ・ 病害が発生した苗は移植しないでください。
- ・ 取置苗はいもち病にかかりやすいので、補植後に速やかに処分してください。

- ・ このような情報をタイムリーに入手することに役立つ、メール配信をしています。
- ・ 右の二次元バーコードからメール作成を開き必要事項を記載の上、申し込みください。



お問合せ先：JA 新しいわて久慈営農経済センター（TEL：0194-52-1318）
久慈農業改良普及センター（TEL：0194-66-9683）
（E-mail：ce0026@pref.iwate.jp）